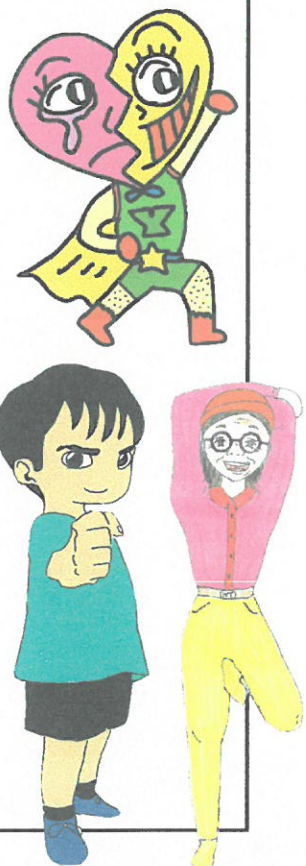


スタ小新聞



スタTube 生配信に挑戦！

1月25日にスタチューブ生配信を行いました。当日見て下さった方、アーカイブを見てくださった方、ありがとうございます。生配信は今回初めての取り組みで、至らない点もありましたが、子どもたちを含め満足する形で終えることができました。生配信終了後、子どもたちと反省会を行ったのですが、『たのしかった』という声はもちろんのこと、『実際に見てくれてくれる人と一緒に撮影できるのが楽しかった』『リアルタイムで見てくれる人の数が増えたり、チャットしてくれるのが嬉しかった』など、具体的に良かった点・嬉しかった点が出てきたのが印象的でした。また、『またやりたい』『次はこんな企画やったら面白そう』と次に繋がるアイデアも出てきました。生配信当日お休みしてしまった子どももいた為、改めて3月に生配信を企画しております。また、告知させていただくので楽しみにしてくださいね。ちなみに、生配信を行うにあたって事前に子どもたちと目標設定をしておりました。当日視聴してくれる人200人、チャンネル登録者数を300人にする事でした。結果は、大幅に目標を達成することはできませんでしたが、生配信を行う前と後ではチャンネル登録者数が10人増えたりと、成果を残すこともできました。自分たちが行ったことがリアルな数字として現れるのもスタチューブの魅力です。今は3月末までにチャンネル登録者数を最低でも200人にするのが目標です。子どもたちがわくわく・楽しい様子をお届けしますので、皆さんの応援よろしく願います。

子どものやる気スイッチ

先日YCC(低)の活動で猿投山ヒルクライムを行いました。小学校低学年の子にとっては厳しい坂道のライドです。自転車の魅力はたくさんあります。長い距離を走ること、お友達と走ること、漕いだ先で食べるご飯など数多くある中で今回は意外とやりたくないと思いがちの『坂道を登った達成感を味わおうの会』を実施しました。活動が始まる前から先生の予想通り、子どもたちの表情は険しいものでした。実際に活動が始まると、坂を目の前に絶対に登ってやるぞ！と意気込む子や、始まる前から弱音を吐いてしまう子など様々でしたが、誰一人かける事なく全員が目標としていた坂道を登り切ることができました。素晴らしいですね。さて、題名にも記載しましたが、『子どものやる気スイッチ』はどこにあると思いますか？保護者の方も悩まれている方が多いことでしょう。活動中にこんなことがあります。普段は身体を動かすのが大好きで何事にもチャレンジする子なのですが、この日はやる前から諦めムード全開。更にネガティブな発言をしてそれが周りに子にも影響してしまっている状態でした。私自身、その子との関係性ができているので、何気ない会話から『今心を燃やさないでいつ燃やすの？』と冗談混じりに言った途端、その子の心が本当に燃えたかの要に目を輝かせ、その後は一度も足をつくこともなく長い坂道を登り切ることができました。そしてそれが、その子にとっての自信にも繋がりました。そしてそれが、その子にとつての自信にも繋がりました。我々大人は子どもたちが安心して楽しく活動してくれる環境を作るのはもちろん、子どもたちの『やる気スイッチ』を常に探しながら声掛けをしていく必要があると改めて感じました。



お手元にスタツ小学校2023年度の手紙が届きましたでしょうか。来年度は『ココロオドル』をテーマに新しいことにもチャレンジし、子どもたちはもちろん、先生、保護者の方々も『ココロオドル』ような活動を意識して行っていきたいと思います。各教室の大枠の変更はありませんが、活動の中身をよりパワーアップしていけるよう、先生たちで色々企画中です。コロナ禍で活動が制限されていましたが、ようやくコロナが世の中にも浸透し我々の日常が取り戻されつつあるということで、来年度は特に各教室の合宿や日帰りイベントに力を入れていきたいと考えています。今年度のやとうぼうしの活動で合宿に何度か行きましたが、合宿中の楽しそうな子どもたちの様子、終わってからの成長を見ると本当に大切な経験だと身をもって感じる事ができました。是非楽しみにしててくださいね。もちろん、合宿だけでなく普段の活動から、子どもたちが楽しく・安心できる、家庭や学校とは違う『第3の居場所』となるよう魅力ある環境を提供し続けます。

パズルありがとうございます

スタ小新聞、通称『校長新聞』をいつも愛読いただきありがとうございます。校長新聞を始めて約2年が経過しようとしています。毎月活動カレンダーと共に普段の気づきやスタ小の活動の様子を私の視点からお伝えさせていただきました。この記事をきっかけに、保護者の方々から声を掛けていただいたり、会話のきっかけになったりと嬉しく思います。そんな校長新聞ですが、毎月発行という形を一旦区切らせていただきます。長いような短いような、なんとも言えない期間でしたが、自分的にはよくやったかなと思っています。皆さんも薄々お気づきかもしれませんが、元々文章で伝えることがとっても苦手で、それを克服したいなという裏テーマもありました。今後も何かしらの形で皆さんに自分の気づきや活動の様子などをお伝えできればと考えておりますのでその際は是非よろしく願います。2年間ありがとうございました。

